



Case 1

一般用医薬品等 [2024年 No.12 事例3]

パーキンソン病患者に関する不適切な鼻炎薬の使用の回避

【第2類医薬品】ナシビンMスプレー（成分：オキシメタゾリン塩酸塩）

ハッとMEMO

- パーキンソン病治療薬で選択的モノアミン酸化酵素B (MAO-B) 阻害薬のセレギリン塩酸塩は併用禁忌が多く、**一般用医薬品にも該当する**薬剤がある。
- 当薬剤の服用者だけでなく、家族や介護者などにも、一般用医薬品を含む他の薬剤を服用・使用する際は事前に相談するよう説明し、定期的に併用薬を確認する。

背景事例

パーキンソン病の患者が、鼻閉の症状が出現したため、介護者に一般用医薬品の購入を依頼、介護者はナシビンMスプレーを購入した。介護者は同スプレーを使用して問題ないか、パーキンソン病治療薬を調剤している薬局に相談（当患者はエフピーOD錠2.5を服用中）。薬剤師が同スプレーの添付文書を確認したところ、「モノアミン酸化酵素阻害剤等を服用している人には使用しない」との記載を確認した。薬剤師は介護者に使用しないよう説明し、主治医に症状を伝えて往診を依頼した結果、ナゾネックス点鼻液50μg 56噴霧用が処方された。

Check

- モノアミン酸化酵素阻害作用等を有する医薬品例（「ナシビンMスプレー」添付文書参照）。
 - セレギリン塩酸塩 ●ゾニサミド ●エンタカボン
- ※その他、「モノアミン酸化酵素阻害剤」に関して、「服用してはいけない／服用前に相談する」の記載がある一般用医薬品の鼻炎薬例）アルガード鼻炎内服薬Z、アレグラFXプレミアム、コルゲンコーワ鼻炎カプセル、ジキナ鼻炎カプセルなど

Case 2

疑義照会・処方医への情報提供 [2025年 No.2 事例1]

年齢・体重変化に伴うエリキュース錠の減量

エリキュース錠（アビキサバン）

ハッとMEMO

- エリキュース錠は、「非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制」を目的に使用する場合、**減量基準**がある。
- 高齢者は一般に腎機能が低下し、同錠の血中濃度が上昇するおそれがあるため、特に注意して用量の確認を行う。
- 服用を継続している間に患者の年齢や体重、腎機能が変化し、減量基準に該当することがある。

背景事例

エリキュース錠5mg 1回1錠1日2回を継続服用している、非弁膜症性心房細動の患者の処方箋を応需。前回来局時から今回までの間に、患者は80歳になっていた。薬剤師が患者に気になる症状がないか確認したところ、紫斑が出現していることを聴取。さらに、現在の体重は42kg、血清クレアチニン値は0.66mg/dLであることを確認した。患者の年齢および体重が、同錠の減量基準に該当するため、疑義照会を行った結果、エリキュース錠2.5mg 1回1錠1日2回に減量になった。

Check

- 【エリキュース錠の用法および用量に関する注意】
 - 〈非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制〉
 - 次の基準の**2つ以上に該当**する患者は、出血のリスクが高く、本剤の血中濃度が上昇するおそれがあるため、1回2.5mg 1日2回経口投与する。
 - ①80歳以上 ②体重60kg以下 ③血清クレアチニン1.5mg/dL以上
 - ※半用量への減量は、定められた減量基準の3項目の内2項目を満たした場合に行うとされ、1項目のみ該当であれば基本的に減量には該当しない。しかし、減量基準項目は、いずれも出血リスクの因子であり、慎重投与にも該当するため、注意深く観察・確認をおこなう。（ファイザー社HP エリキュース「よくあるご質問」参考）

ちょっとMEMO

【2025年3月27日 エリキュース錠（アビキサバン）に関する添付文書改訂】

「効能または効果に関連する注意」に、〈アミバンタマブ（遺伝子組換え）とラゼルチニブとの併用投与による静脈血栓塞栓症の発症抑制〉の項目が追加